

令和2年度

事業報告書

(自) 令和 2年 4月 1日

(至) 令和 3年 3月 31日

〒452-0962

愛知県清須市春日新町9-5番地

社会福祉法人西春日井福社会

理事長 今村 達雄

令和2年度西春日井福祉会本部事業報告書

1 法人運営に関する会議の開催

- (1) 理事会 13回（開催13回、書面決議なし）評議員推薦、施設長選任、事業計画・予算、事業報告・決算、補正予算、施設整備、規則改正、新型コロナウイルス対策
- (2) 評議員会 1回（定時開催1回、臨時開催なし）事業報告及び決算報告、施設整備、新型コロナウイルス対策
- (3) 指名審査委員会 11回（通常部会2回、特別部会9回）施設整備及び契約に関する事項等
- (4) 施設長会議開催
 - ① 定例会 11回（月次状況確認、法人統一事項確認、事業運営における情報共有等）
 - ② 検討会 11回（経営分析結果、業務改善提案の審議等）
 - ③ 新型コロナウイルス対策に関する臨時会議（随時）
- (5) 人事委員会 7回（職員表彰者の選定、職員勤務評定結果の報告、人事案件）
- (6) 法人運営の適正に向けた会議の開催
 - ① 運営適正化委員会 10回（各業務内容の適正化、職種別役割分担の明確化等）
 - ② 法人の会議・委員会（新型コロナウイルス対策会議、事務系会議、職種別会議等）

2 職員の雇用状況

- (1) 職員総数 673名（正規391名、嘱託44名、パート222名、技能実習生16名）
- (2) 採用 67名（正規38名、嘱託6名、パート23名）
 - ① 募集活動（問合せ・面談数231名、施設見学者89名、正規職員受験者43名）
 - ② 募集方法（学校704校、紹介所4箇所、就職フェア23回、ホームページ、インターネット求人等）
- (3) 退職 47名（正規20名、嘱託2名、パート25名）

3 人事異動

- (1) 昇任等 22名（次長1名、係長級5名、主任等任命15名、解任1名）
- (2) その他 71名（身分換15名、配置換34名、職種換3名、兼職6名、育休復帰6名、再任用7名等）

4 職員処遇の充実

- (1) 昇給等 344名（正規295名、嘱託6名、パート43名）
- (2) 職員表彰 60名（20年勤続4名、10年勤続29名、ブロンズ賞25名、業務提案4名）
- (3) 福利厚生 10種（リフレッシュ事業、自己啓発事業、健康増進に係る事業、職員給与積立事業、団体保険事業、衛生材料斡旋、感染防止策等）

5 法人としての職員育成

- (1) 一般職員研修 1回 延 16名（救命講習）
- (2) 階層別研修 24回 延 278名（新人職員、チューター職員、管理者等）
- (3) 専門職員研修 8回 延 64名（専門的スキルを学ぶ基礎研修や職種別研修等）

6 組織統治及び内部統制の充実

- (1) 理事長報告会等の実施
 - ① 事業実績報告 2回（2日間）
 - ② 事業計画予算報告 1回（1日間）
- (2) 監事による監査及び検査の実施
 - ① 現金出納監査 6回（偶数月）現金預金の変動及び残高、利用者預り金の高額取引確認
 - ② その他監査 決算監査1回（2日間） 中間監査1回（2日間）
- (3) 会計監査人による監査の実施
 - ① 月例監査 8回（8月、10月から毎月実施）
 - ② 決算監査1回（3日間）
- (4) 法人内部監査室による施設実施状況調査の実施
 - ① 施設及び事業所の運営状況等確認 8項目（43日間）

7 その他の活動（地域貢献活動実績等）

- (1) 地域貢献活動 外部へ出張講師等 26件
- (2) 広報活動 福祉会だよりの発行（4回：5月、8月、11月、2月）
- (3) 外国人技能実習生受入れ関連の活動
1期生6名評価試験（初級）合格、2期生10名受入、社宅整備、研修教育、会議開催等
- (4) 施設整備事業 障害者グループホームこだち、（仮称）第6特別養護老人ホーム

令和2年度特別養護老人ホーム五条の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名、通年営業）

- (1) 平均入所者数 78.5名（前年度 79.5名）
- (2) 稼働率 98.1%（前年度 99.3%）
- (3) 平均介護度 3.96（前年度 3.92）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 2回（敬老会、餅つき）
- (2) 外出支援 0回
- (3) 食事関係 25回（バイキング、ゴールランチ、プレートランチ）

3 職員研修

- (1) 外部研修 7回 延べ人数8名
- (2) 内部研修 14回（事故防止及び身体的拘束、衛生講習会、事業方針説明等）

4 各種会議・委員会

- (1) 定例会議・委員会 137回（業務改善会議、主任会議、事故防止委員会等）
- (2) 臨時会議・委員会 11回（新型コロナウイルス対策会議、疥癬対策会議）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 新型コロナウイルス感染症等における予防対策の徹底が必要とされる中でも、入所者の日々の生活の満足度や充実度が低下しないように、サービス担当者会議で検討を行い、個人を尊重した介護サービスの提供に努めました。
- (2) 適合性や衛生面を考慮して、介護用シューズやクッション等を個人管理としました。また、入所者ごとの介護用品の使用状況や保管方法を明確にすることで、物品の管理等を見直しました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症等の対策について、空気清浄機や陰圧室、パーテーション等の設置により、感染予防に努めるとともに、発症者が出た場合の対応方法を検討のうえ、周知しました。また、職員からの陽性者の対応については、感染症対策マニュアル、業務継続計画に沿った迅速な対応により、二次感染者の発生を防ぎながら事業運営を継続することができました。
- (4) 外部研修については、オンライン研修を活用し、介護報酬改定や介護技術の標準化等の知識を学ぶとともに、学習用の書籍を準備して自己学習をする環境を整え、意欲向上に努めました。
- (5) 新しい生活様式を踏まえながら、安全な環境でバイキングを実施できるよう工夫を凝らし、食事サービスの充実にも努めました。また、多職種による検討会を踏まえた栄養ケア計画書を作成することによって、入所者の食事形態に合わせた安全安心な食事を提供しました。
- (6) 餅つき行事では、各フロアの職員及び入所者が一緒になって餅をつくことで、日本文化を大切にしながら連帯感を高め、行事の喜びを感じることができました。
- (7) 家族や病院、多職種と調整を図り、入退所を円滑に進めました。また、退院時には病院と連携して状態把握を行い、施設内での情報共有を徹底し、必要に応じて相談員や看護職員等が病院へ向かい本人の状態を確認することで適切な介護支援を実施しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) ボランティアの協力を得ながら、施設周辺の花壇に花を植え、近隣の方々も鑑賞できる環境を整えました。また、新たに入所者の衣類を繕ってもらった裁縫ボランティアを迎え入れました。
- (2) 介護実習の受け入れでは、地域の感染状況を踏まえ、受け入れと中断を繰り返しながら、複数校の介護福祉士実習生を受け入れることができました。
- (3) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、フロア内のイベントや日常生活の様子等、地域の方々に向けて発信することにより、施設の様子を定期的に周知することができました。
- (4) 地域包括支援センター主催のほっとひといきりフレッシュに出席し、在宅で介護をしている参加者の悩み相談に助言をすることにより、地域福祉に貢献しました。
- (5) 市町からの要請に応え、虐待、傷病者による生活困難者の事例に際し、市役所や地域包括支援センター等と速やかな連携を図り、迅速な緊急保護を行いました。

令和2年度特別養護老人ホーム五条の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 19.4名 | (前年度 19.3名) |
| (2) 稼働率 | 96.8% | (前年度 96.7%) |
| (3) 平均介護度 | 2.98 | (前年度 2.92) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 行事関係 | 2回 | (敬老会、餅つき) |
| (2) 食事関係 | 25回 | (バイキング、ゴールランチ、プレートランチ) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 外部研修 | 7回 | 延べ人数8名 |
| (2) 内部研修 | 14回 | (事故防止及び身体的拘束、衛生講習会、事業方針説明等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 137回 | (業務改善会議、主任会議、事故防止委員会等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 11回 | (新型コロナウイルス対策会議、疥癬対策会議) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 担当者会議において、利用者又は家族からの希望、心身状況、在宅での生活環境等を確認したうえ、事業所内での多職種との情報共有をすることで、安心かつ安定したサービス提供につなげることができました。
- (2) 利用者ごとに介護用品の使用状況や保管方法を明確にするとともに、物品の管理体制を強化しながら適切な支援を提供することによって、在宅生活が継続できるように努めました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症等の対策について、空気清浄機や陰圧室、パーテーション等の設置により、感染予防に努めるとともに、発症者が出た場合の対応方法を検討のうえ、周知しました。また、職員からの陽性者の対応については、感染症対策マニュアル、業務継続計画に沿った迅速な対応により、二次感染者の発生を防ぎながら事業運営を継続させることができました。
- (4) 外部研修については、オンライン研修を活用し、介護報酬改定や介護技術の標準化等の知識を学ぶとともに、学習用の書籍を準備して自己学習をする環境を整え、意欲向上に努めました。
- (5) 新しい生活様式を踏まえながら、安全な環境でバイキングを実施できるよう工夫を凝らし、食事サービスの充実に努めました。また、多職種による検討会を踏まえた栄養ケア計画書を作成することによって、利用者の食事形態に合わせた安全安心な食事を提供しました。
- (6) 餅つき行事では、各フロアの職員及び利用者が一緒になって餅をつくことで、日本文化を大切にしながら連帯感を高め、行事の喜びを感じることができました。
- (7) 新規契約時には、在宅介護について家族の希望を確認し、送迎時間や介護支援方法、家族への細かな情報提供等を提案することで、信頼関係を深めることができました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) ボランティアの協力を得ながら、施設周辺の花壇に花を植え、近隣の方々も鑑賞できる環境を整えました。また、新たに利用者の衣類を繕ってもらう裁縫ボランティアを迎え入れました。
- (2) 介護実習の受け入れでは、地域の感染状況を踏まえ、受け入れと中断を繰り返しながら、複数校の介護福祉士実習生を受け入れることができました。
- (3) フェイスブックや福祉会だよりを活用して、フロア内のイベントや日常生活の様子等、地域の方々に向けて発信することにより、施設の様子を定期的に周知することができました。
- (4) 地域包括支援センター主催のほっとひといきりフレッシュに出席し、在宅で介護をしている参加者の悩み相談に助言をすることにより、地域福祉に貢献しました。
- (5) 市町からの要請に応え、虐待、傷病者による生活困難者の事例に際し、市役所や地域包括支援センター等と速やかな連携を図り、迅速な緊急保護を行いました。

令和2年度デイサービスセンター五条の里通所介護事業所事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 26.2名（前年度 25.9名）
 - (2) 稼働率 87.4%（前年度 86.4%）
 - (3) 平均介護度 2.13（前年度 2.23）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 6回（敬老会、法人デイサービス運動会、節分等）
 - (2) 食事関係 35回（バイキング、プレートランチ、鉄板料理等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 9回（感染症予防、認知症ケア、事故防止及び身体的拘束等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 106回（デイ会議、事故防止委員会、生活支援委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（新型コロナウイルス対策会議、疥癬対策会議等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染症等の予防策を踏まえて、作業療法では感染対策物品を作り、音楽療法では、ハンドベルを利用者の希望に合わせた曲で演奏する等、プログラムの見直しや強化を図ることによって、利用者の活動意欲の向上につなげました。
 - (2) サービス担当者会議にて、利用者の心身機能を本人、家族及びケアマネジャーと確認し合い、機能訓練プログラムを適宜更新することで、身体機能の維持向上に努めました。
 - (3) 安全運転の啓発活動として、ドライブレコーダーの映像を活用し、運転する職員に自ら確認してもらう機会を持ちました。視聴にあたっては、適切な走行速度や走行時に発生している危険因子に気づくことで、送迎時の事故防止に努めました。
 - (4) 新型コロナウイルス感染症等の対策について、空気清浄機や陰圧室、パーテーション等の設置により、感染予防に努めるとともに、発症者が出た場合の対応方法を検討のうえ、周知しました。また、通所介護事業所の業務継続計画を完成させることができたため、緊急報告会を開催して、対応方法の統一や感染対策の意識向上に努めました。
 - (5) 認知症ケアや身体拘束防止の研修から学んだ知識や技術を基に、不穏になってしまう利用者への不適切ケアの予防策を検討しました。その結果、利用者が、なぜそうなったのかというケアの概念に立ち帰り、尊厳を配慮した支援方法等を再度理解してケアにつなげました。
 - (6) 旬の食材を活かした季節のゴールデンランチを定期的で開催し、味覚以外の見た目でも満足できるメニューを提供しました。また、新しい生活様式を踏まえながら、安全な環境でもバイキングが実施できるように工夫を凝らして、食事サービスの充実に努めました。
 - (7) 新規契約時には、在宅介護についての家族の希望を確認し、送迎時間や介護支援方法、家族への細かな情報提供等を提案することで、信頼関係を深めることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) ボランティアの受け入れが困難な時期においても、関係性が継続できるように、利用者の活動中の様子をハガキ等を送付して知ってもらい、事業所とのつながりの維持に努めました。
 - (2) 介護実習の受け入れについては実施が困難な状況の中、可能な限り対応したことで、福祉教育の貢献につなげていくことに努めました。
 - (3) リーフレットの掲載内容について、一面を新型コロナウイルス感染症等の予防に関する記事の特大号や、利用者のインタビュー記事欄を掲載する等、誰もが興味を引くように工夫を凝らし、地域に事業所の特徴や様子を知っていただきました。
 - (4) 地域包括支援センター主催のほっとひといきりフレッシュに出席し、在宅介護をしている参加者の悩み相談に助言をすることにより、地域福祉に貢献しました。
 - (5) 地域包括支援センターから、在宅介護者の介護疲れがあるとともに、他事業所を利用できない複合的な困難事例の相談を受け、迅速に利用へつなげることができました。

令和2年度特別養護老人ホームあいせの里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員80名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 79.4名 | （前年度 79.1名） |
| (2) 稼働率 | 99.2% | （前年度 98.8%） |
| (3) 平均介護度 | 4.04 | （前年度 3.96） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 8回 | （スイカ割り大会、クリスマス会、もちつき大会等） |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 24回 | （ビアガーデン、敬老祝い膳、おせち料理等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数34名 |
| (2) 内部研修 | 45回 | （感染予防、防災、介護技術標準化等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 105回 | （感染症予防、事故防止、身体拘束廃止等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 18回 | （感染症予防、介護事故ケース検討、労働災害再発防止） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) できる限り経口摂取を継続したいという入所者の意向を実現するため、入所者、家族の希望を多職種協働でケアプランに反映させる等、入所者本位のサービス提供に努めました。
- (2) フロアごとの夏祭りや、ビアガーデンの企画等、コロナ禍においてもできる限り入所者の生活の質が低下しないよう、感染対策に努めながら各行事を実施し、メリハリのある生活を送っていただけよう支援しました。
- (3) 定期的にミールラウンドを実施し、嚥下機能の低下がみられる入所者への安全な食事支援に努めました。また、季節に応じた行事食やなめらか食の提供等、食を通じて日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう工夫しました。
- (4) 定例の感染予防対策委員会に加えて、新型コロナウイルス感染症の動向に応じて機動的に会議を招集し、決定した方針や対策を迅速に施設内に周知することにより、情報共有を徹底しました。また、感染症対策に関する勉強会を実施する等、全職員の感染予防に対する意識の向上を図り、施設全体で感染症予防に取り組みました。
- (5) 新規入所者を選考する際、緊急性、要介護度を重視するとともに、入院者において長期入院が見込まれる場合の適切な退所判断により、入所の必要性が高い待機者から優先的に入所できるよう努めました。
- (6) 災害に関する施設内研修、備蓄物資の確保や安全点検を計画的に実施しました。また、火災や水害を想定した避難訓練を行う等、災害が発生しても施設運営が継続できるよう備えました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域における福祉施設の相談機能の役割を担うため、近隣の公共施設を使って、在宅で介護をしている家族介護者の集いを北名古屋市と協働で開催しました。
- (2) 感染予防の観点から、夏祭り、介護の日の開催、ボランティアの受入れは中止しましたが、各ボランティア宛てにクリスマスカードや年賀状、絵手紙を送ることにより、地域とのつながりを継続できるように努めました。
- (3) 介護福祉士の実習受け入れについては、実習開始前より感染予防を徹底していただいたうえで受け入れを行うことで、感染症対策をとりながら福祉人材を育成しました。
- (4) 福祉会だよりの発行やフェイスブックの小まめな更新により、家族、地域住民に施設内の取り組みや入所者の日常生活の様子を伝え、透明性の高い施設作りに努めました。
- (5) 大規模な水害を想定した災害訓練では、垂直避難や高所からの救助訓練、土嚢を使った浸水対策等を、北名古屋市や近隣の福祉施設と合同かつ実践的な訓練を行うことで、協力体制の構築に努めました。

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 18.9名 | （前年度 18.7名） |
| (2) 稼働率 | 94.6% | （前年度 93.5%） |
| (3) 平均介護度 | 3.17 | （前年度 2.95） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 8回 | （スイカ割り大会、クリスマス会、もちつき大会等） |
| (2) 食事関係 | 24回 | （ビアガーデン、敬老祝い膳、おせち料理等） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 外部研修 | 11回 | 延べ人数34名 |
| (2) 内部研修 | 45回 | （感染予防、防災、介護技術標準化等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 105回 | （感染症予防、事故防止、身体拘束廃止等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 18回 | （感染症予防、介護事故ケース検討、労働災害再発防止） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) サービス担当者会議で得た利用者の希望や心身状況等の情報を周知しながら、サービス内容のモニタリング等、PDCAサイクルに則り各利用者への良質なサービス提供につなげました。
- (2) フロアごとの夏祭りや、ビアガーデンの企画等、コロナ禍においてもできる限り利用者の生活の質が低下しないよう、感染対策に努めながら各行事を実施して、メリハリのある生活を送っていただけるよう支援しました。
- (3) 嚥下機能の低下がみられる利用者については、医師の見解を踏まえ、サービス担当者会議で協議し、個々に合った安全な方法で食事サービスを提供しました。また、季節に応じた行事食やなめらか食の提供等、食を通じて日常生活の中に楽しみを持っていただけるよう工夫しました。
- (4) 定例の感染予防対策委員会に加えて、新型コロナウイルス感染症の動向に応じて機動的に会議を招集し、決定した方針や対策を迅速に施設内に周知することにより、情報共有を徹底しました。また、感染症対策に関する勉強会を実施する等、全職員の感染予防に対する意識の向上を図り、施設全体で感染症予防に取り組みました。
- (5) 医療依存度の高い重度の利用者も柔軟に受け入れるため、多職種協働でサービス提供方法を模索しながら利用につなげました。また、各居宅介護支援事業所との連携も積極的に進め、稼働率の向上に努めました。
- (6) 災害に関する施設内研修や備蓄物資の確保、安全点検を計画的に実施しました。また、火災、水害を想定した避難訓練を行う等、災害発生時においても施設運営が継続できるよう備えました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域における福祉施設の相談機能の役割を担うため、近隣の公共施設を使って、在宅で介護をしている家族介護者の集いを北名古屋市と協働で開催しました。
- (2) 感染予防の観点から、夏祭り、介護の日の開催、ボランティアの受入れは中止しましたが、各ボランティア宛てにクリスマスカードや年賀状、絵手紙を送ることにより、地域とのつながりを継続できるように努めました。
- (3) 介護福祉士の実習受け入れについては、実習開始前より感染予防を徹底していただいたうえで受け入れを行うことで、感染症対策をとりながら福祉人材を育成しました。
- (4) 福祉だよりの発行やフェイスブックの小まめな更新により、家族、地域住民に施設内の取り組みや利用者の日常生活の様子を伝え、透明性の高い施設作りに努めました。
- (5) 大規模な水害を想定した災害訓練では、垂直避難や高所からの救助訓練、土嚢を使った浸水対策等を、北名古屋市や近隣の福祉施設と合同かつ実践的な訓練を行うことで、協力体制の構築に努めました。

令和2年度老人デイサービスセンターあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 28.1名（前年度 25.8名）
 - (2) 稼働率 93.5%（前年度 86.0%）
 - (3) 平均介護度 2.19（前年度 2.23）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 20回（運動会、ほっとタイムカフェ、謝恩会等）
 - (2) 食事関係 25回（敬老祝い膳、おせち料理、季節御膳等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 9回（救急対応勉強会、腰痛予防勉強会、事業方針説明会等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 50回（デイサービス会議、リーダー会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 6回（感染症予防、介護事故ケース検討、労働災害再発防止）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 活動意欲の維持向上や他者との交流の活性化を図るため、音楽療法や創作活動等の選択レクリエーションを実践し、利用者による自己選択を促しました。
 - (2) 心身の健康状態を活性化するための体操や作業療法等の各種プログラム、個々のニーズに合ったサービス内容を通所介護計画書に反映しました。また、デイサービス会議内で各種勉強会を実施し、職員の知識、技術の向上につなげました。
 - (3) 利用者が安心安全な空間で過ごせるよう、廊下やデイルーム等生活空間の環境整備に努めました。また、事故報告書、ヒヤリハット報告について検証した内容を全職員で共有することで、介護事故の防止につなげました。
 - (4) 在宅生活が維持できるよう、身体機能に合わせた滑車運動、上下肢マッサージ等、生活機能訓練を利用者一人ひとりに合わせて実施しました。コロナ禍のため外出行事は中止となりましたが、園芸活動を取り入れ、利用者と職員共同で季節ごとの野菜や花の栽培を楽しんでいただくことで心身機能の向上を図りました。
 - (5) 感染症予防対策として、各テーブルへの飛沫防止パーテーションの設置や送迎車内の小まめな消毒、空間の除菌等、衛生的な環境を維持しました。また、感染症予防についての施設内研修を実施する等、感染症発生及びまん延防止に取り組みました。
 - (6) 事業所の特色や一日のスケジュール等をまとめた冊子を作成して、各居宅介護支援事業所等との連携を深めることに活用しました。また、困難ケースについても柔軟に対応する等、利用者、ケアマネジャーからの信頼の確保、稼働率の向上に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域における福祉施設の相談機能の役割を担うため、近隣の公共施設を使って、在宅で介護をしている家族介護者の集いを北名古屋市と協働で開催しました。
 - (2) 感染予防の観点から、夏祭り、介護の日の開催、ボランティアの受入れは中止しましたが、各ボランティア宛てにクリスマスカードや年賀状、絵手紙を送ることにより、地域とのつながりを継続できるように努めました。
 - (3) 介護福祉士の実習受け入れについては、実習開始前より感染予防を徹底していただいたうえで受け入れを行うことで、感染症対策をとりながら福祉人材を育成しました。
 - (4) 福祉会だよりの発行やフェイスブックの小まめな更新により、家族、地域住民に施設内の取り組みや利用者の日常生活の様子を伝え、透明性の高い施設作りに努めました。
 - (5) 大規模な水害を想定した災害訓練では、垂直避難や高所からの救助訓練、土嚢を使った浸水対策等を、北名古屋市や近隣の福祉施設と合同かつ実践的な訓練を行うことで、協力体制の構築に努めました。

令和2年度ケアハウスあいせの里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員30名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 29.0名（前年度 28.9名）
 - (2) 稼働率 96.6%（前年度 96.4%）
 - (3) 要介護者数 13名（前年度 14名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 5回（映画の日、もちつき大会、節分の日等）
 - (2) 外出支援 1回（買物外出）
 - (3) 食事関係 19回（敬老祝い膳、おせち料理、朝食モーニング等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 6回（防災、感染症予防、緊急時の対応等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 41回（運営連絡会議、事故防止委員会、感染対策委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 4回（感染症予防）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者の心身の状態や居住環境を観察し、必要に応じて家族や担当ケアマネジャーと連携して介護サービスを展開することで、健康で自立した日常生活が継続できるように支援しました。
 - (2) 新型コロナウイルス感染症等の予防のため、施設内行事や外出行事を自粛する中、感染対策に努めながら可能な範囲で、朝食モーニング行事や手芸クラブ等を行いました。また、外出行事の楽しみの一つである外食については、テイクアウトを活用する等、日常生活に変化をもたらせるよう工夫しました。
 - (3) 集会室では換気の徹底や三密の回避を図りながら、ケアビクス体操や認知症予防プログラムを実施しました。また、外出自粛により身体機能が低下しないよう、廊下にウォーキングコースを作製し、入所者の身体機能維持につなげました。
 - (4) 施設見学者や居宅介護支援事業所に対して、自立につながる外出支援、健康維持に関する支援等、事業所の特色をアピールすることで入所申込者の確保に努めました。また、入所待機者の身体状況や意向を定期的に調査することにより、常に現状を把握しておくことで円滑な入所に備えました。
 - (5) 感染症対策では、毎月の健康相談だけでなく、入所者自身が感染予防を意識するよう、うがい、手洗いの徹底や、マスク着用の重要性、居室の換気等、新型コロナウイルス感染症等の予防に関する知識を啓発しました。また、火災防止のため、毎月各居室を点検して環境整備について助言することにより、入所者が安全に生活できるように努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域における福祉施設の相談機能の役割を担うため、近隣の公共施設を使って、在宅で介護をしている家族介護者の集いを北名古屋市と協働で開催しました。
 - (2) 感染予防の観点から、夏祭り、介護の日の開催、ボランティアの受入れは中止しましたが、各ボランティア宛てにクリスマスカードや年賀状、絵手紙を送ることにより、地域とのつながりを継続できるように努めました。
 - (3) 福祉会だよりの発行やフェイスブックの小まめな更新により、家族、地域住民に施設内の取り組みや入所者の日常生活の様子を伝え、透明性の高い施設作りに努めました。
 - (4) 大規模な水害を想定した災害訓練では、垂直避難や高所からの救助訓練、土嚢を使った浸水対策等を、北名古屋市や近隣の福祉施設と合同かつ実践的な訓練を行うことで、協力体制の構築に努めました。

令和2年度特別養護老人ホームペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員100名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 98.3名（前年度 98.6名）
 - (2) 稼働率 98.3%（前年度 98.6%）
 - (3) 平均介護度 4.02（前年度 3.97）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 6回（お祭り、餅つき大会、節分等）
 - (2) 外出支援 1回（お花見）
 - (3) 食事関係 18回（バイキング、モーニング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数6名
 - (2) 内部研修 12回（リフト講習研修、感染対策、医療勉強会等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 210回（調整会議、事故防止委員会、感染予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 6回（新型コロナウイルス感染対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) コロナ禍において、例年、入所者や家族の意向を把握するため実施しているサービス担当者会議を開催できなかったため、面会時や電話等により、入所者の近況を伝えたり要望を伺う等家族との情報共有に努めました。
 - (2) 日々、変化していく入所者の身体状況に合わせ、適切な福祉用具を使用していただくため、変更が必要な場合には各チーム会議において検討を行い、その都度、更新できるよう取り組むことができました。また、最新の車椅子やエアマットを購入したことで、入所者の状態に対し幅広い対応ができました。
 - (3) コロナ禍のため、外出行事がすべて中止となる中、施設内で運動会、もちつき大会等の行事を企画し、入所者に楽しい一時を過ごしていただくことができました。また、毎月、コーヒーの日を設け、豆からひいたコーヒーを提供し、喜んでいただきました。
 - (4) 毎月開催の事故防止委員会で、各部署が連携して介護事故状況の分析を行い、防止策を検討のうえ職員に周知することで、再発防止に努めることができました。
 - (5) 新型コロナウイルス感染症等の予防のため、職員に感染しない、感染させないための行動をとるよう重ねて注意喚起を行いました。また、マスクや消毒用品、ガウン等、必要物品の確保、陰圧装置や空気清浄機等の感染対策備品の整備を行うとともに、罹患者が発生した場合の出退勤経路や、罹患者、濃厚接触者の隔離方法等ソフト面の検討を行い、速やかに対応できるよう努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染症等の拡大に伴い、入所者や職員及び地域の方々の安全確保のため、今年の祭りは中止と判断しました。
 - (2) 介護実習生の受け入れ時に、体調や体温をしっかりと管理するとともに、手指消毒やうがい等感染対策を徹底したうえで、コロナ禍でも福祉にかかわる人材の育成に取り組むことができました。
 - (3) フェイスブックでは、イベントや大きな行事が縮小されたため、入所者の日々の様子がわかるような内容をアップすることで、面会に来られない家族に情報発信することができました。
 - (4) 南海トラフ地震が昼間に発生し、それに伴い火災が発生した想定で避難訓練を行うことで、避難経路や避難方法の再確認ができ、有事の際にも落ち着いて行動できるように備えることができました。また、炊き出し訓練として、非常用食品をライフラインが停止した想定で作ることで、手順や問題点の確認を行うことができました。

事業運営

- 1 利用状況（定員10名、通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.9名（前年度 9.9名）
 - (2) 稼働率 89.5%（前年度 99.5%）
 - (3) 平均介護度 2.76（前年度 2.69）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 6回（お祭り、餅つき大会、節分等）
 - (2) 食事関係 18回（バイキング、モーニング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数6名
 - (2) 内部研修 12回（リフト講習研修、感染対策、医療勉強会等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 210回（調整会議、事故防止委員会、感染予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 6回（新型コロナウイルス感染対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) コロナ禍において、他事業所への新規利用者面接時に三密を防ぐため人数制限が設けられており、多職種での訪問が難しいケースが多いことから、担当ケアマネジャーや病院ソーシャルワーカーと連携を密にし、事前情報を多く入手することで、的確なニーズの把握に努めることができました。
 - (2) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、フロア単位で行えるイベントや祭りを開催することで、施設内でも楽しんでいただき、生活にメリハリをつけることができました。また、イベントでは節分やひな祭り等、季節の感のある行事を行うことで四季の移り変わりを感じていただきました。
 - (3) 毎月開催の事故防止委員会で、各部署が連携して介護事故状況の分析を行い、防止策を検討のうえ職員に周知することで、再発防止に努めることができました。
 - (4) 日頃から、多職種との情報交換を行い連携強化することで、行政からの緊急ショートステイの依頼に対しても迅速に対応し、多くの生活困窮者の受け入れを行うことができました。
 - (5) 新型コロナウイルス感染症等予防のため、職員に感染しない、感染させないための強い自覚と行動をとるよう重ねて注意喚起を行いました。また、マスク、消毒用品、ガウン等の必要物品の確保、陰圧装置や空気清浄機等の感染対策備品の整備を行うとともに、罹患者が発生した場合の出退勤経路や、罹患者、濃厚接触者の隔離方法等ソフト面の検討を行い速やかに対応できるように努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者や職員及び地域の方々の安全確保のため、今年の祭りは中止と判断しました。
 - (2) 介護実習生の受け入れ時に、体調や体温をしっかりと管理するとともに、手指消毒やうがい等感染対策を徹底したうえで、コロナ禍でも福祉にかかわる人材の育成に取り組むことができました。
 - (3) フェイスブックでは、イベントや大きな行事が縮小されたため、利用者の日々の様子がわかるような内容をアップすることで、面会に来られない家族に情報発信することができました。
 - (4) 南海トラフ地震が昼間に発生し、それに伴い火災が発生した想定で避難訓練を行うことで、避難経路や避難方法の再確認ができ、有事の際にも落ち着いて行動できるように備えることができました。また、炊き出し訓練として、非常用食品をライフラインが停止した想定で作ることで、手順や問題点の確認を行うことができました。

令和2年度老人デイサービスセンターペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 24.6名（前年度 27.7名）
 - (2) 稼働率 82.1%（前年度 92.3%）
 - (3) 平均介護度 2.01（前年度 2.07）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 21回（鯉解体ショー、曜日対抗リーグ、敬老イベント等）
 - (2) 食事関係 15回（バイキング、季節御膳）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 12回（事業概要説明、感染症対策研修、スピーチロック研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 68回（調整会議、給食委託会議、デイサービス会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 7回（新型コロナウイルス感染症対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 在宅生活継続のため、利用者本人の心身状況や生活環境、家族の希望を適切に聞き取り、通所介護計画書に反映することができました。また、コロナ禍におけるレクリエーションとして個別メニューを実施する中で、洗濯干しや洗濯たたみ等の役割を持って活動できる企画も新たに考案し、今ある能力を発揮できる環境を整えました。また、身体状況の変化に応じて、その都度、機能訓練メニューを検討、変更し取り組むことができました。
 - (2) 歯科衛生士からの助言を受け、適切な口腔ケアを実施することができました。口腔ケア時に気づいた口腔内の状況を家族、ケアマネジャーに報告し、早めの歯科受診、義歯調整につなげることができました。また、嚥下機能に変化のある利用者に対しては家族に相談後、食事形態を見直し、安全に食事提供することができました。
 - (3) 利用者が快適に過ごすことができるようデイルーム、トイレ、浴室、送迎車内の環境整備に努めました。また、デイルーム内のレイアウトを大幅に変更し、レクリエーション棚を1か所にまとめ、利用者への個別レクリエーションの提供がスムーズとなりました。最新情報の共有を図るため、紙媒体の記録からソフト活用する方法に変更したことで、直近の心身状況を理解したうえでサービスを提供することができました。
 - (4) 居宅介護支援事業所との意見交換会を初めて実施し、利用者や家族が在宅で抱える悩みや、デイサービスで対応できるサービス内容等をケアマネジャーと擦り合わせを行い、連携を深めることができました。また、稼働率改善のため、事業所の特徴等をまとめた冊子を新たに作成し、ケアマネジャーに配布して利用希望者への説明時に活用していただくことにより、新規利用者の獲得につなげることができました。
 - (5) 利用者、家族に対しては送迎乗車前の検温、手指消毒、血中酸素飽和濃度測定の実施、利用中の不織布マスクの着用等に協力していただくことができました。また、昼食時にはアクリルパーテーションを設置し、飛沫防止に努めました。感染対策としての取り組みを一目で理解できるように作成したチラシを毎朝テーブルに置き、感染対策に対する理解を深めていただきました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染症等の影響により、各種ボランティアの受け入れを中止しました。
 - (2) デイサービス通信やフェイスブックを積極的に活用し、レクリエーション風景や季節創作物の製作、感染症対策等を中心に様々な取り組みを紹介することにより、利用者家族、地域住民、居宅介護支援事業所等に情報発信することができました。
 - (3) 地震発生を想定した防災訓練では、避難誘導の他、搬送時の指導や消火器訓練を行いました。フロアに残る利用者もシェイクアウト訓練を行い、安全確保に必要な動作を再認識できました。また、日頃から危険箇所がないよう整理整頓や動線確保を意識して環境整備に努めました。

令和2年度グループホームペガサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員9名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 8.9名（前年度 8.9名）
 - (2) 稼働率 99.0%（前年度 98.4%）
 - (3) 平均介護度 2.08（前年度 1.71）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 12回（盆踊り、餅つき大会、豆まき等）
 - (2) 外出支援 0回
 - (3) 食事関係 10回（行楽弁当、重箱ランチ、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 2回 延べ人数3名
 - (2) 内部研修 3回（KYT勉強会、感染症勉強会、リスクマネジメント）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 76回（調整会議、衛生委員会、感染予防委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（緊急感染予防会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者個々の能力に応じて、炊事や清掃等の家事を手伝っていただき、自身の役割を持ちながら、生きがいのある生活を送れるよう支援をすることができました。
 - (2) 本人や、家族の要望も取り入れて策定した支援計画に基づき、毎月、カンファレンスを行い、状態に合わせたケアを行うことができました。
 - (3) コロナ禍で、外出や地域とのかかわりが制限されたため、施設内でも四季の移り変わりや楽しさを感じられるよう、家庭菜園での季節野菜の栽培や季節の食材を利用した重箱ランチを提供しました。
 - (4) 安心かつ安全に利用していただくため、最新の空気清浄機の導入や施設内の消毒の徹底に取り組むことができました。また、感染症拡大の予防のため、入所者と職員出勤時の体温チェックに取り組みました。
 - (5) 適切なサービス体制を確保するため、定期的に施設内にて勉強会等を開催し職員一人ひとりの知識向上を図ることで、安心かつ安全に利用していただけることができました。
 - (6) 緊急対応訓練を行い、実際の行動の点検を行うとともに、緊急時対応のマニュアルの見直しを行いました。また、災害時のとるべき行動についても合わせて確認し、職員間での意思統一を図りました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染等の対策により、福祉体験等の受け入れは中止しました。
 - (2) かわら版を作成し、毎月家族へ送付することで、施設での様子を報告することができました。また、フェイスブックを活用し、情報の発信を行いました。
 - (3) 運営推進会議を定期的に開催し、事業活動の説明、率直な意見交換を行うことができました。

令和2年度ケアはうすぺがサス春日事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員30名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 28.7名（前年度 29.5名）
 - (2) 稼働率 95.6%（前年度 98.3%）
 - (3) 要介護者数 7名（前年度 6名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 5回（うなぎ井を楽しむ会、餅つき大会、正月の会等）
 - (2) 外出支援 1回（ショッピング）
 - (3) 食事関係 26回（昼食バイキング、モーニング、夕食新年会等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 0回
 - (2) 内部研修 6回（介護福祉士実務者研修、施設内研修）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 71回（運営連絡会議、感染対策委員会、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（新型コロナウイルス感染対策会議）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 入所者の心身の状況や家庭環境を把握し、支援及び介護が必要な入所者の認定調査の立会いやサービス担当者会議への出席を行うことで、入所者が自立した生活ができるよう、ニーズに合った介護保険サービスの提案を行うことができました。また、特別定額給付金申請等の行政施策を適切に受けられるよう申請手続きを支援しました。
 - (2) 新型コロナウイルス感染症等の予防対策を施したうえでの買い物、送迎車内から花見ドライブの外出行事や季節に応じた創作レクリエーション、餅つき等の施設内行事、各種クラブ活動を企画、実施し、入所者が楽しみを持って生活ができるよう創意工夫しました。また、毎日のラジオ体操や機能訓練指導員による健康体操を行い、制限された自粛生活において、入所者の身体機能の維持、低下防止や認知症予防に努めました。
 - (3) 季節を感じられるよう旬の食材を使用したバイキングや、日常とは違う雰囲気を楽しんでいたただくモーニングを実施し、食事の楽しさを感じていただきました。
 - (4) 施設見学者や、入所の問合せに対し、施設での生活が魅力的に感じられるようケアハウス入所の利便性や費用等を説明し、入所待機者を確保しました。待機者に関しては、現在の身体状況や入所の意向を定期的に確認することにより、空室の発生時に速やかに入所していただけるよう準備を整えました。
 - (5) 毎日の体温と血中酸素飽和度の測定、定期的に行う健康、歯科相談での看護職員によるバイタル測定、日常の見守りの中での体調伺いや、病院受診時の結果伺いで入所者の健康状況を把握しました。また、体調不良者には病院受診への付き添いを行いながら、疾病の早期発見、早期対応に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、入所者や職員及び地域の方々の安全確保のため、今年の福祉カフェは中止と判断しました。
 - (2) フェイスブックでは、イベントや大きな行事が縮小されたため、利用者の日々の様子がわかるような内容をアップすることで、面会に来られない家族に情報発信することができました。
 - (3) 南海トラフ地震に伴い、火災が発生したとの想定で避難訓練を行い、避難経路や方法の再確認を行うことで、有事の際にも落ち着いて行動できるように備えることができました。また、炊き出し訓練として、ライフラインが停止した想定で、非常食品を調理することで、手順や問題点の確認を行いました。

令和2年度特別養護老人ホーム清洲の里事業報告書

事業運営

- 1 入所状況（定員80名、通年営業）
 - (1) 平均入所者数 78.2名（前年度 78.7名）
 - (2) 稼働率 97.8%（前年度 98.3%）
 - (3) 平均介護度 3.93（前年度 3.95）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 8回（運動会、バーベキュー、秋祭り等）
 - (2) 外出支援 1回（お花見ドライブ）
 - (3) 食事関係 19回（ランチ会、バイキング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 4回 延べ人数15名
 - (2) 内部研修 16回（新型コロナ対策、外国人技能実習受け入れ、認知症等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 147回（感染症褥瘡防止委員会、事故防止委員会、主任会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 5回（新型コロナウイルス対策会議、ケース検討会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 心身の状態に応じて入所者個々のニーズや、家族から聞き取った意向に沿って施設サービス計画を作成し、入所者本位のサービス提供に努めました。また、ミールラウンドを開催し、多職種が連携して食事形態や提供方法を検討することで、入所者一人ひとりに合った食事環境を整えることができました。
 - (2) 面会等の制限が行われる中、感染対策を徹底しながらの短時間面会や、オンライン面会を実施し、家族と入所者のつながり維持に努めました。また、楽しく過ごしていただけるよう、施設内で秋祭りや、運動会等の季節を感じる催しを実施しました。
 - (3) 事故防止委員会では、転倒転落アセスメントシートを作成し、入所者個々の転倒等のリスクを定期的に評価し、職員が共有することで転倒防止に努めました。また、医療安全委員会では誤薬事故振り返りシートを用いて、原因究明及び再発防止に取り組むことができました。
 - (4) 入所選考委員会を定期的で開催し、要介護度や介護者負担等の指標を基に、緊急性の高い入所待機者が速やかに施設サービスを受けることができるよう努めました。
 - (5) 感染症関連の会議をはじめ、施設内での各種会議において、新型コロナウイルス感染症関連の最新情報を発信し、共有することで施設全体の感染予防に努めました。また、新型コロナウイルス感染症等発生時のシミュレーションを行い、マニュアルに沿って必要物品の準備や防護服の着用、入所者の誘導等を実際に現場で行い、疑問点や課題に対し見直しを行いました。
 - (6) 技能実習制度や、日本とネパール文化の違い、やさしい日本語の説明を会議や研修の場を通じて行い、受け入れのための環境作りを行いました。また、外国人技能実習生が、技能を身に付け、生活面での情報共有ができるよう、指導担当職員をはじめとした多くの職員が積極的に交流を持ち、相互理解につなげることができました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) コロナ禍において、感染リスクを考慮し、限定してボランティアの受け入れを行い、地域とのコミュニケーションと関係維持に努めました。また、感染予防対策を励行しつつ介護福祉実習や看護実習を受け入れることで、福祉人材の育成に努めました。
 - (2) フェイスブックや福祉会だよりを活用し、地域の方々や家族へ情報発信することで、施設内での行事内容や、入所者の様子を広く周知し、開かれた施設運営に努めました。
 - (3) 火災や風水害等を想定した避難訓練を実施しました。訓練では、入所者の誘導等を通じて避難経路の確認を行い、また、地元消防団と連携を図りながら放水訓練や消火訓練、担架を使つての搬送訓練を行い、職員個々の防災スキル向上に努めました。
 - (4) 地域で暮らす人々のセーフティネットの役割を果たすため、行政や関係機関と連携を図り、ニーズに合ったサービスにつなげることで、信頼関係の維持に努めました。

令和2年度清洲の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 19.1名 | (前年度 19.2名) |
| (2) 稼働率 | 95.5% | (前年度 95.9%) |
| (3) 平均介護度 | 3.23 | (前年度 2.92) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 行事関係 | 8回 | (運動会、バーベキュー、秋祭り等) |
| (2) 食事関係 | 19回 | (ランチ会、バイキング) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 外部研修 | 4回 | 延べ人数15名 |
| (2) 内部研修 | 16回 | (新型コロナ対策、外国人技能実習受け入れ、認知症等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 147回 | (感染症褥瘡防止委員会、事故防止委員会、主任会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 5回 | (新型コロナウイルス対策会議) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者が充実した生活を送ることができるよう、担当者会議や送迎時に利用者及び家族からニーズの把握に努め、サービスに反映することで良質なサービス提供に努めました。
- (2) 感染対策を徹底し、施設内での秋祭りや、バーベキュー等の行事を実施し、満足度向上に努めました。また、日々のレクリエーションでは季節の移り変わりに合わせた作品作りや、認知機能維持のための回想法を取り入れ、心身機能の維持につなげることができました。
- (3) 食事行事では、昼食作りや、おやつ作り等を企画し、利用者個々が役割を持つことで、生き生きとした表情で作業をされ、お腹も心も満たす行事となりました。また、季節の食材を使用したランチ会やバイキングを開催し、普段とは違う雰囲気です食事を提供することで、食を通じた満足度向上に努めました。
- (4) 事故防止委員会では、転倒転落アセスメントシートを作成し、利用者個々の転倒等のリスクを定期的に評価し、職員で共有することで、転倒防止に努めました。また、施設内研修では、同じテーマで複数回開催し、多くの職員が参加できる環境作りを行うことで、施設全体の介護力向上につなげました。
- (5) 医療安全委員会では、誤薬事故振り返りシートを用いて、原因究明及び再発防止に取り組むことができました。また、特定行為業務従事者を対象に手技の確認を行うことで、医療的ケアを適切に提供できる体制作りにも努めました。
- (6) 感染症関連の会議を始め、施設内での各種会議において、新型コロナウイルス感染症関連の最新情報を発信し、共有を行うことで施設全体の感染予防に努めました。また、新型コロナウイルス感染症等発生時のシミュレーションを行い、マニュアルに沿って必要物品の準備や防護服の着用、利用者の誘導等を実際に現場で行い、疑問点や課題に対し見直しを行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) コロナ禍において、感染リスクを考慮し、限定してボランティアの受け入れを行い、地域とのコミュニケーションと関係維持に努めました。また、感染予防対策を励行しつつ介護福祉実習や看護実習を受け入れることで、福祉人材の育成に努めました。
- (2) フェイスブックや福祉会だよりを活用し、地域の方々や家族へ情報発信することで、施設内での行事内容や、利用者の様子を広く周知し、開かれた施設運営に努めました。
- (3) 火災や風水害等を想定した避難訓練を実施しました。訓練では、利用者の誘導等を通じて避難経路の確認を行い、また、地元消防団と連携を図りながら放水訓練や消火訓練、担架を使っでの搬送訓練を行い、職員個々の防災スキル向上に努めました。
- (4) 地域で暮らす人々のセーフティネットの役割を果たすため、行政や関係機関と連携を図り、ニーズに合ったサービスにつなげることで、信頼関係の維持に努めました。

令和2年度特別養護老人ホーム平安の里事業報告書

事業運営

1 入所状況（定員96名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 94.0名 | (前年度 94.0名) |
| (2) 稼働率 | 98.0% | (前年度 98.0%) |
| (3) 平均介護度 | 3.84 | (前年度 3.94) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 6回 | (防災訓練、土用の丑の日、マグロの解体ショー等) |
| (2) 外出支援 | 0回 | |
| (3) 食事関係 | 16回 | (昼食バイキング、松花堂弁当、おせち料理等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 外部研修 | 9回 | 延べ人数29名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (事故防止、身体拘束・虐待防止、口腔ケア等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 132回 | (運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 10回 | (臨時感染症予防対策委員会、臨時事故防止委員会) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 日頃のサービス提供時に把握した入所者のニーズや、家族から聴き取った要望を基に施設サービス計画を作成して、個人を尊重した介護サービスの提供に努めました。また、コロナ禍での面会規制が行われる中、リモート面会サービスや緊急事態宣言解除後の面会を行うことにより、入所者や家族の不安、心配を緩和し、安心した生活を送るよう努めました。
- (2) 外出支援が実施できない中、旬の食材を使ったイベントやクリスマス等工夫を凝らし、季節を感じるができる催しを行い、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。
- (3) 入所者や家族のニーズを踏まえ、施設内でリフレッシュができる屋上庭園を利用した散歩等の機能訓練を行い、心身の機能維持に努めました。また、施設内研修では、三密防止の観点から事前に資料を配布して、質疑をまとめて参加してもらい、研修担当者が分かりやすく解説する等、知識や技術の研鑽に努めました。タブレットを使用した外部研修も可能な限り参加することにより、サービスの質の確保に努めました。
- (4) 迅速な入退所が行えるように、短期入所利用者を中心に事前調査を進め、入所選考委員会を定期的で開催し、入所待機者が速やかに施設サービスを受けることができるように努めました。
- (5) 感染予防対策委員会や緊急会議で、新型コロナウイルス感染症対策や初期対応方法のマニュアルを作成して、職種間連携を図り全職員へ周知徹底することにより、感染予防に努めました。また、濃厚接触者が発生した際も施設一丸となり、シミュレーションどおり適切な感染予防対策に努めるとともに、マニュアルの改訂や、感染予防に係る衛生材料を確保することで、安全なサービス提供を行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防を進める中、入所者が地域で孤立しないように、ボランティアをはじめ地域の方とコミュニケーションを図りながら、信頼構築に努めました。また、介護福祉士の実習生を受け入れ、次世代を担う人材育成に努めました。
- (2) フェイスブックや福祉会だより等を活用して、地域の方々や家族へ施設内で行われた行事等での笑顔あふれる入所者の様子を広く周知することで、新しい生活様式に合わせた情報発信ができました。
- (3) 安全に入所者が生活できるように、風水害、震災時での防災訓練を実施して、防災意識の高揚に努めました。また、災害備蓄物資の確認、設備点検も定期的に行いました。
- (4) 地域福祉の後継者育成のため、認知症キャラバンメイト育成等を行うことにより、行政や関係機関との信頼、協力関係を継続できるように努めました。

令和2年度平安の里短期入所生活介護事業所事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員30名、通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 28.8名 | (前年度 28.4名) |
| (2) 稼働率 | 96.1% | (前年度 94.5%) |
| (3) 平均介護度 | 2.93 | (前年度 2.98) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 行事関係 | 6回 | (防災訓練、土用の丑の日、マグロの解体ショー等) |
| (2) 食事関係 | 16回 | (バイキング、松花堂弁当、おせち料理等) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 外部研修 | 9回 | 延べ人数29名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (事故防止、身体拘束・虐待防止、口腔ケア等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|--------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 132回 | (運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 10回 | (臨時感染症予防対策委員会、臨時事故防止委員会) |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者が充実した生活が送れるよう、積極的に送迎時や電話等連絡時の際、利用者及び家族からニーズの把握に努めサービス計画に反映することにより、個人を尊重した介護サービスの提供に努めました。また、サービス担当者会議では、利用時の状況を分かりやすく説明することにより、信頼関係を築くことができました。
- (2) 旬の食材を使ったイベントやクリスマス等工夫を凝らし、季節を感じることを促しを行い、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。
- (3) 利用者や家族のニーズを踏まえ、施設内でリフレッシュができる屋上庭園を利用した散歩等の機能訓練を行い、心身の機能維持に努めました。また、施設内研修では、三密防止の観点から事前に資料を配布して、質疑をまとめて参加してもらい、研修担当者が分かりやすく解説する等、知識や技術の研鑽に努めました。タブレットを使用した外部研修も可能な限り参加することにより、サービスの質の確保に努めました。
- (4) 緊急事態宣言終結後、直ちに居宅介護支援事業所へ出向き、担当利用者の自宅での生活状況の聴き取りや、事業所利用中の状況を細かく伝えることにより、信頼関係を維持し新規利用者の獲得に努めました。
- (5) 感染予防対策委員会や緊急会議で、新型コロナウイルス感染症対策や初期対応方法のマニュアルを作成して、職種間連携を図り全職員へ周知徹底することにより、感染予防に努めました。また、濃厚接触者が発生した際も施設一丸となり、シミュレーションどおり適切な感染予防対策に努めるとともに、マニュアルの改訂や、感染予防に係る衛生材料を確保することで、安全なサービス提供を行いました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防を進める中、利用者が地域で孤立しないように、ボランティアをはじめ地域の方とコミュニケーションを図りながら、信頼構築に努めました。また、介護福祉士の実習生を受け入れ、次世代を担う人材育成に努めました。
- (2) フェイスブックや福祉会だより等を活用して、地域の方々や家族へ施設内で行われた行事等での笑顔あふれる利用者の様子を広く周知することで、新しい生活様式に合わせた情報発信ができました。
- (3) 安全に利用者が生活できるように、風水害、震災時での防災訓練を実施して、防災意識の高揚に努めました。また、災害備蓄物資の確認、設備点検も定期的に行いました。
- (4) 地域福祉の後継者育成のため、認知症キャラバンメイト育成等を行うことにより、行政や関係機関との信頼、協力関係を継続できるように努めました。

令和2年度老人デイサービスセンター平安の里事業報告書

事業運営

- 1 利用状況（定員30名、通年営業、年始2日及び夏祭り開催日を除く）
 - (1) 平均利用者数 24.8名（前年度 29.2名）
 - (2) 稼働率 82.8%（前年度 97.4%）
 - (3) 平均介護度 2.08（前年度 1.91）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 27回（お笑い劇場、ボンジュール、マグロの解体ショー等）
 - (2) 食事関係 15回（バイキング、松花堂弁当、おせち料理等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 2回 延べ人数2名
 - (2) 内部研修 6回（事故防止、身体拘束・虐待防止、口腔ケア等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 各種会議・委員会 72回（運営連絡会議、デイサービス会議、事故防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 3回（臨時感染症予防対策委員会）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 担当者会議に出席した際、利用者や家族の希望、生活目標を十分に把握した内容を基に、目標達成のための通所介護計画書を作成して各職種が理解し、連携することにより、質の高いサービス提供に努めました。
 - (2) 豊かな在宅生活が継続できるよう個々の身体機能に合わせて屋上庭園の散策や個々に合った機能訓練を実施することにより、利用者の自立心や積極性を高めるとともに、身体機能の維持向上に努めました。
 - (3) レクリエーション活動では新たなプログラムとして、リラクゼーションをはじめ、職員が講師となり雑学等の勉強会を進め、意欲の向上や認知症予防につながりました。また、デイサービス会議では、ヒヤリハット、事故報告書を基に再発防止策をまとめ実践し、さらに危険予知活動では意見交換をすることにより、職員の知識や技術の向上を図りました。
 - (4) 緊急事態宣言終結後、直ちに居宅介護支援事業所へ出向き、担当利用者の自宅での生活状況の聴き取り、事業所利用中の状況を細かく伝えることにより、信頼関係を維持し新規利用者の獲得に努めました。
 - (5) 感染予防対策委員会等で、新型コロナウイルス感染症対策や初期対応方法のマニュアルを作成して、職種間連携を図り全職員へ周知徹底することにより、感染予防に努めました。また、濃厚接触者が発生した際も施設一丸となり、シミュレーションどおり適切な感染予防対策に努めるとともに、マニュアルの改訂や、感染予防に係る衛生材料を確保することで、安全なサービス提供を行いました。安全な送迎業務を進めるため、出退勤時や送迎業務中での危険箇所をヒヤリマップに落とし込み、事故防止に努めました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染症予防を進める中、利用者が地域で孤立しないように、ボランティアをはじめ地域の方とコミュニケーションを図りながら、信頼構築に努めました。また、介護福祉士の実習生を受け入れ、次世代を担う人材育成に努めました。
 - (2) フェイスブックや福祉会だより等を活用して、地域の方々や家族へ施設内で行われた行事等での笑顔あふれる利用者の様子を広く周知することで、新しい生活様式に合わせた情報発信ができました。
 - (3) 安全に利用者が生活できるように、風水害、震災時での防災訓練を実施して、防災意識の高揚に努めました。また、災害備蓄物資の確認、設備点検も定期的に行いました。
 - (4) 地域福祉の後継者育成のため、認知症キャラバンメイト育成等を行うことにより、行政や関係機関との信頼、協力関係を継続できるように努めました。

令和2年度西春日井福祉会居宅介護支援事業所事業報告書

事業運営

- 1 ケアプラン作成状況
 - (1) 作成数 2, 558名 (前年度 2, 639名)
 - (2) 予防委託数 574名 (前年度 639名)
 - (3) 平均介護度 1.86 (前年度 1.80)
- 2 相談受付状況
 - (1) 全体 108名 (前年度 91名)
 - (2) 地区別
 - ア 清須市 78名 (前年度 45名)
 - イ 北名古屋市 21名 (前年度 36名)
 - ウ 豊山町 5名 (前年度 2名)
 - エ その他 4名 (前年度 8名)
- 3 新規契約・契約終了数
 - (1) 新規契約名数 65名 (前年度 67名)
 - (2) 契約終了名数 69名 (前年度 68名)
- 4 認定調査請求数 129名 (前年度 165名)
- 5 職員研修
 - (1) 外部研修 35回 延べ人数73名
 - (2) 内部研修 7回 (事例検討、退院加算研修、超過単位研修等)
- 6 各種会議・委員会
 - (1) 各種会議・委員会 46回 (定例会議)
 - (2) 臨時会議・委員会 5回 (令和3年報酬改定対策会議、感染症発生時対応会議等)

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 新型コロナウイルス感染症等の対策を徹底し、短時間の訪問や随時の電話相談で在宅での生活が継続できるよう支援しました。
 - (2) 利用者や家族の意見を尊重しながらデイサービス等のフォーマルサービス及び訪問マッサージ等のインフォーマルサービスを有効に活用できるよう、サービス計画書を作成しました。
 - (3) 主治医やサービス関係者との意見交換、情報収集を図り、状態変化の把握に努めました。安心して在宅生活が遅れるよう、変化に応じたサービス計画書の見直しに努めました。
 - (4) 職員の業務について、評価点検表を用い自己評価を行うことで、自己研鑽に努めました。
 - (5) 地域ケア会議等の外部研修では、レインボーネット上で開催となり、意見交換を行い情報共有ができました。オンライン研修を行うことで、通常より多くの職員を参加させることができました。また、事業所内研修では、事例検討での意見交換により住宅環境等の課題を掘り下げ、新たな認識や思考の幅を広げることができました。
 - (6) 定例会議では、三密を避けて開催し、事業の進捗等の連絡や地域資源の情報共有を行いました。また、報酬改定への理解を深めるよう情報収集及び勉強会を行いました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域福祉について行政機関や他サービス事業所、また、各地域のケアマネジャー会等で研修、事例検討会を行い情報の共有に努めました。
 - (2) 地域に根差した事業所として役割が担えるように、レインボーネット等から地域資源や新設事業のサービスを把握しながら利用者が社会とのつながりを維持できるよう支援しました。
 - (3) 他の居宅介護支援事業所やサービス事業所と連絡を取り合い、関係者に正確な情報が提供できるよう心掛けました。また、様々な職種と連携を図りながら、地域包括ケアシステム作りに協力しました。
 - (4) 災害発生等を見据えた平時の備えとして、利用者状況や連絡先を再確認しました。
 - (5) 緊急時の対応について、24時間の電話連絡体制を取りながら、緊急ショートステイ等の対応を行いました。

事業運営

1 入所状況（定員50名、通年営業）

- (1) 平均入所者数 49.9名（前年度 49.9名）
- (2) 稼働率 99.8%（前年度 99.8%）
- (3) 平均障害支援区分 5.21（前年度 5.20）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 1回（クリスマス会）
- (2) 外出支援 0回
- (3) 食事関係 56回（行事食、ご当地メニュー）

3 職員研修

- (1) 外部研修 11回 延べ人数28名
- (2) 内部研修 8回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）

4 各種会議・委員会

- (1) 定例会議・委員会 208回（運営会議、ユニット会議、日活調整会議等）
- (2) 臨時会議・委員会 22回（新型コロナウイルス感染症対策委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者の人権を尊重し、安心して安全なサービスを提供するために人権委員会を設置しました。愛知県内の施設で起きた虐待事件の原因について考察し、全体に周知しました。人権に関する内部研修を開催し、意識の向上を図りました。
- (2) 健康委員会及び感染症対策委員会では、利用者の健康状態の把握や感染症に対する意識の向上を図りました。新型コロナウイルス感染症対策委員会を毎週開催し、熱発者への対応やゾーニングについて話し合い、感染者発生に備え準備を進めました。また、夜間等の緊急時に適切な対応ができるよう研修を実施しました。
- (3) 楽しみのある豊かな生活作りのため、合同外出委員会を設置しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出や一泊旅行は中止となりました。そのため感染予防をしながら、屋内での娯楽や喫茶こもれびを利用して余暇支援に努めました。
- (4) 安心安全な環境作りのため防災、環境委員会を設置し、環境整備や設備点検、補修を実施しました。また、早朝を想定した防災訓練を実施しました。
- (5) 豊かな食生活を送るために、ご当地メニューや行事メニューを取り入れました。季節感のあるバラエティに富んだ献立を工夫することで、食に対する興味や関心が高まりました。
- (6) 新型コロナウイルス感染症等の影響で、外部研修への参加は少なくなりましたが、新人研修や支援研修、嘱託研修等の内部研修を実施し、職員の支援の向上を図りました。
- (7) 計画的な地域移行を進めていくため、グループホーム開設準備ワーキンググループを設置し、整備や運営、活動内容等を検討しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 地域の理解と支援に感謝し地域との交流を目的とした記念祭は、新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため中止となりました。
- (2) 新型コロナウイルス感染症等防止のため地域のスーパーや喫茶店、美容院等への外出は自粛しました。朝のラジオ体操等、地域と関りを深める活動への参加も自粛しました。
- (3) 地域の施設理解を深めるため、広報紙やフェイスブック等を活用し、情報を発信しました。
- (4) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、予定していた中学生の職場体験学習や福祉体験教室の受け入れを中止しました。
- (5) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、利用者と接するボランティア活動は中止しましたが、修繕ボランティアは自宅で繕い物をしていただきました。ボランティア交流会も中止となりましたが、日頃の感謝を込めて利用者が織ったさをり織りを使ってマスクを作り、郵送しました。
- (6) 地域のイベントや西春日井地域福祉の店への出店は自粛しました。

令和2年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（短期入所）事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員10名、通年営業）

- (1) 平均利用者数 7.1名（前年度 8.8名）
- (2) 稼働率 71.4%（前年度 88.1%）
- (3) 平均障害支援区分 4.93（前年度 4.78）

2 地域交流事業等

- (1) 行事関係 1回（クリスマス会）
- (2) 食事関係 56回（行事食、ご当地メニュー）

3 職員研修

- (1) 外部研修 11回 延べ人数28名
- (2) 内部研修 8回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）

4 各種会議・委員会

- (1) 定例会議・委員会 208回（運営会議、ユニット会議、日活調整会議等）
- (2) 臨時会議・委員会 22回（新型コロナウイルス感染症対策委員会等）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 新型コロナウイルス感染症等の影響で自粛される利用者が多く、一時的に稼働率が下がりましたが、緊急利用や長期利用等で少しずつ利用が増えました。利用に際しては、今まで以上に安心して利用できるように、可能な限り同じユニットや居室を用意するように配慮しました。
- (2) 新型コロナウイルス感染症等の影響で活動が制限される中、施設内の余暇活動に参加することで、楽しく過ごすことができました。日中慣れている他事業所に通所することは、感染防止のため中止しました。
- (3) 地域関係者と相談支援センターと連携しながら、サービスを必要としている地域の人の情報を収集することで、新たな利用者が少しずつ増加しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 安心して地域で暮らすことができるように、家族の入院や冠婚葬祭等での緊急利用は、調整しながら優先して受け入れました。また、地元地域の利用者の希望を優先するため、サービス提供区域外の利用者をお断りすることがありました。
- (2) 地域の関係機関と連携することで、速やかに緊急入所を受け入れ、家族の負担軽減や本人保護に努めました。懸念ケースについては、サービス担当者会議に参加し、本人と家族の将来を見据えながら、今後について検討することができました。

事業運営

- 1 利用状況（定員68名、通年営業、日曜及び年末年始6日を除く）
 - (1) 平均利用者数 66.1名（前年度 65.2名）
 - (2) 稼働率 97.2%（前年度 95.8%）
 - (3) 平均障害支援区分 5.17（前年度 5.16）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 1回（クリスマス会）
 - (2) 食事関係 56回（行事食、ご当地メニュー）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 11回 延べ人数28名
 - (2) 内部研修 8回（新人研修、支援研修、嘱託研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 208回（運営会議、ユニット会議、日活調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 22回（新型コロナウイルス感染症対策委員会等）

重点取組

- 1 福祉サービスの提供に関する取組
 - (1) 計画相談と連動し、本人のニーズに沿った個別支援計画を作成しました。新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、活動場所や活動内容を変更しサービスの提供を継続しました。変化に弱い方が多いため、活動内容を工夫しながら柔軟に対応しました。歩行活動は福祉の杜の近辺のみに限って行いました。
 - (2) 喫茶ギャラリーこもればの活動も、新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、利用者の活動は7月まで自粛しました。活動再開にあたり、入所利用者及び新型コロナウイルスの感染が怖いという利用者は引き続き自粛しています。現在1名が店外にて、こもればで提供するハーブの手入れや窓ふき等に取り組んでいます。
 - (3) 新型コロナウイルス感染症等の影響で、外部研修への参加は少なくなりましたが、新人研修や支援研修、嘱託研修等の内部研修を実施し、職員の支援の向上を図りました。
 - (4) 新型コロナウイルス感染症等防止のため、利用を自粛される方がありましたが、新規利用者や希望のあった利用者の利用回数を増すことにより、稼働目標を達成できました。
 - (5) 健康委員会及び感染症対策委員会では、利用者の健康状態の把握や感染症に対する意識の向上を図りました。新型コロナウイルス感染症対策委員会を毎週開催し、熱発者への対応やゾーニングについて話し合い、感染者発生に備え準備を進めました。
 - (6) 安心安全な環境作りのため防災、環境委員会を設置し、環境整備や設備点検、補修を実施しました。また、早朝を想定した防災訓練を実施しました。
- 2 地域社会と共生するための取組
 - (1) 地域の理解と支援に感謝し地域との交流を目的とした記念祭は、新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため中止となりました。
 - (2) 新型コロナウイルス感染症等防止のため地域のスーパーや喫茶店、美容院等への外出は自粛しました。朝のラジオ体操等、地域と関りを深める活動への参加も自粛しました。
 - (3) 地域の施設理解を深めるため、広報紙やフェイスブック等を活用し、情報を発信しました。
 - (4) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、予定していた中学生の職場体験学習や福祉体験教室の受け入れを中止しました。
 - (5) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、利用者と接するボランティア活動は中止しましたが、修繕ボランティアは自宅で繕い物をしていただきました。ボランティア交流会も中止としましたが、日頃の感謝を込めて利用者が織ったさをり織りを使ってマスクを作り、郵送しました。
 - (6) 地域のイベントや西春日井地域福祉の店への出店は自粛しました。

事業運営

1 利用状況（定員20名、通年営業、日曜及び年末年始6日を除く）

- | | | | |
|------------|------|------|-------|
| (1) 平均利用者数 | 0.1名 | （前年度 | 0.1名） |
| (2) 稼働率 | 0.3% | （前年度 | 0.7%） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者一人ひとりに適した創作的活動や生産的活動を行いました。土曜日に利用されている定期利用者には、カラオケや入浴支援等、本人の希望に沿った活動を提供しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 生活介護を利用できない人を対象に、本人のニーズに沿った活動の場を提供し、生活に楽しみと潤いを持つことができました。
- (2) 支援困難なケースはありませんでしたが、引き続き地域関係者との連携を図りました。

令和2年度障害者支援施設尾張中部福祉の杜（日中一時支援）事業報告書

事業運営

1 利用状況（定員5名、通年営業、日曜及び年末年始6日を除く）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 1.8名 | （前年度 2.9名） |
| (2) 稼働率 | 36.8% | （前年度 57.3%） |

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 一時的な見守りだけでなく、創作活動等の余暇活動を行い、生活意欲の向上を図りました。また、平日に短期入所と併用する利用者も見え、本人のニーズに合った活動を提供しました。
- (2) 長期休暇（春休み）中、在宅障害児の日中活動の場所を日中一時支援事業で提供し、地域生活の充実を図ることができました。しかし、夏休み・冬休みは新型コロナウイルス感染症等拡大により、安全に実施することが困難なため、開催は中止しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 平日、他事業所を利用している利用者を土曜日に一時的に受け入れ、家族の介護負担の軽減を図ることができました。
- (2) 複数のサービスを利用しているケースについて、地域関係機関と連携を図りながら、サービスを利用する機会を設けました。

令和2年度相談支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

1 利用状況（月～金営業、土日祝及び年末年始6日を除く）

(1) ケアプラン	6件	(前年度	4件)
(2) 障害支援区分認定調査	21件	(前年度	24件)
(3) 電話相談	923件	(前年度	587件)
(4) 来所相談	348件	(前年度	351件)
(5) 訪問相談	482件	(前年度	494件)
(6) 計画相談	220件	(前年度	192件)
総計	2,000件	(前年度	1,652件)

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意思及び人格を尊重し、常に利用者や家族の立場に立って、公正中立な相談支援を行うよう努め、充実した生活を送ることができるように支援しました。市町福祉課と連携し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら、サービス等利用計画を作成し、モニタリング等で検証しました。
- (2) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として、運営会議や作業部会等を開催しました。4～5月、1～2月は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言中だったため、運営会議等中止し、本会も書面決裁としました。上記以外の期間は、感染防止対策をとりながら、運営会議や訪問系事業所部会作業部会、日中活動系事業所部会作業部会、グループホーム交流会作業部会、児童部会研修会を開催し、地域関係者との連携を深めることができました。
なお、日中活動系事業所部会作業部会では、地域生活支援拠点について意見交換し、運営会議に提言しました。
相談支援部会では、情報交換や講師を招いて、いなざわ特別支援学校の進路指導について、相談支援従事者初任者研修について、愛知県地域生活定着支援センターの事業について、リモートワークについての研修を行い、他事業所との連携を深めるとともに、相談支援専門員のスキルアップを図ることができました。
- (3) 愛知県障害者相談支援体制整備事業を受託し、地域アドバイザーとして、関係機関の会議等で助言し、圏域の障害者支援協議会及び相談支援体制等の活性化を図ることができました。映画「道草」上映実行委員会が、豊山町で行った映画とミニシンポジウムを地域アドバイザー事業として、共催という形で支援しました。
- (4) 新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、地域の親グループ活動自体が自粛されており、参加する機会はほとんどありませんでした。
障害者支援を考えよう勉強会は、新型コロナウイルス感染症等拡大により、安全に実施することが困難なため、今年度は中止しました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 交流ホール等の貸し出しは、新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、中止しました。
- (2) 障害者情報を発信するため、情報紙杜の風だよりを毎月発行し、地域関係者に配布し、地域の状況や新しい情報を得ることができたと好評でした。
- (3) 西春日井地域福祉の店の出店は、新型コロナウイルス感染症等拡大防止のため、中止しました。

令和2年度訪問介護支援センター尾張中部福祉の杜事業報告書

事業運営

○居宅介護事業

1 利用状況（通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 186名（前年度 182名）
- (2) 延利用時間 1,422.0時間（前年度 1,196.5時間）

○行動援護事業

1 利用状況（通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 50名（前年度 70名）
- (2) 延利用時間 217.0時間（前年度 518.5時間）

○重度訪問介護事業

1 利用状況（通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 13名（前年度 26名）
- (2) 延利用時間 473.5時間（前年度 506.5時間）

○移動支援事業

1 利用状況（通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 234名（前年度 617名）
- (2) 延利用時間 965.5時間（前年度 5,232.5時間）

重点取組

1 福祉サービスの提供に関する取組

- (1) 利用者や家族の意向を聴取し、了解を得ながら、ニーズに即した計画を作成し、概ね計画のとおり実施することができました。
- (2) 男性ヘルパーの新規採用はなく、同性介護の要望に対して、十分に応えることはできませんでした。また、移動支援、行動援護では、新型コロナウイルスの感染症等防止のため、不特定多数の人が利用する施設への外出や飲食を伴う外出を自粛しました。
- (3) 利用者や家族から、サービスについて直接聞き取り調査を行い、満足度を把握し、支援に活かすことができました。
- (4) ヘルパー会議や地域部門会議でケース検討を行い、ヘルパーのスキルアップを図りました。
- (5) 新型コロナウイルス感染症等防止のため、サービス担当者会議の多くは中止でしたが、書面や電話等で地域関係者との連携を図りました。

2 地域社会と共生するための取組

- (1) 訪問介護支援センターに関する情報を情報誌等で発信する機会はありませんでした。